

対岸在住者・千葉県北西部在住者 Web アンケート調査結果

(1) 認知度・来訪経験

① 認知度

- 君津市の認知度は「自治体名は聞いたことがある」が約6割（58.1%）と最も多く、次いで「ある程度知っている（23.1%）」の順となっている。
- 「知っている」は、「男性（36.5%）」が「女性（17.0%）」を上回っている。
- 「全く知らない」は、「東京都」で19.9%、「神奈川県」で17.4%に達している。

② 来訪経験

- 「行ったことがない」が48.0%と最も多く、次いで、「目的地ではないが、通過したことがある（32.4%）」、「目的地として行ったことがある（18.6%）」の順となっている。
- 「女性」における「行ったことがない」は60.6%となっており、女性の来訪経験が低い。
- 「東京都」、「神奈川県」では「行ったことがない」が半数以上を占めている。

③ アクセスに対する認知度

- 都心へのアクセス時間は、約3分の2（64.5%）の回答者に認知されていた。

(2) 観光資源の認知度・興味

① 観光資源の認知度

- 認知度が最も高いものは、「観光農園」の24.4%となっており、次いで、「清水溪流広場（濃溝の滝・亀岩の洞窟）（22.4%）」、「ゴルフ場（22.1%）」の順となっている。
- 一方、認知度が最も低いものは、「清和県民の森」の7.9%となっており、次いで、「酒蔵（9.1%）」、「久留里の名水（9.3%）」の順となっている。

② 観光資源に対する興味

- 「（興味を）惹かれる」の割合が最も高いものは、「温泉」の74.4%となっており、次いで、「清水溪流広場（濃溝の滝・亀岩の洞窟）（69.6%）」、「観光農園（66.2%）」の順となっている。
- 一方、「（興味を）惹かれない」の割合が最も高いものは、「ゴルフ場」の85.4%となっており、次いで、「酒蔵（66.5%）」、「キャンプ場・バーベキュー場（56.5%）」の順となっている。
- 認知度と興味の差では、「温泉」が58.7%ポイントで最も乖離が大きく、次いで「清水溪流広場（濃溝の滝・亀岩の洞窟）（47.2%ポイント）」、「久留里の名水（45.3%ポイント）」、「鹿野山/九十九谷（45.3%ポイント）」の順となっている。

(3) 君津市の居住環境評価（居住する地域として考えた場合の整備・サービス水準）

- 「魅力がある」は、「自然」の38.1%が最も多く、次いで「住宅（17.3%）」の順となっている。「不安がある」と「やや不安がある」の合計は、「市内交通」の29.2%が最も多く、次いで「医療（28.4%）」、「広域交通（26.9%）」の順となっている。

調査目的	首都圏の居住者を対象に、君津市の認知度、イメージや魅力等について調査し、定住、交流人口、関係人口の創出に向けた施策を検討するための基礎資料とすることを目的として実施。
調査期間	令和2年9月17日（木）～9月18日（金）
回収結果	合計1,031サンプル（千葉市以西の千葉県内：206、東京都：412、神奈川県：413）

- 「魅力がある」は、「千葉県」における「子育て（17.5%）」、「自然（41.7%）」、「神奈川県」における「住宅（20.3%）」、「財政（19.9%）」、「広域交通（14.0%）」などが多くなっている。
- 「不安がある」は、「千葉県」、「東京都」では「市内交通」、「神奈川県」では「医療」が最も多い。

(4) 地方移住ニーズ

① 地方移住の意向

- 「条件があれば地方に移住してもよい」が27.4%と最も多く、「将来的には移住したい」が6.8%、「二地域居住、ワーケーション」が13.6%となっている。
- 「条件があれば地方に移住してもよい」は「30歳代（32.7%）」、「20歳代以下（32.5%）」が多い。

② 移住情報の発信媒体

- 「インターネット上の移住関連の記事」が50.3%で最も多く、次いで、「テレビ（49.8%）」、「自治体のホームページ（40.5%）」の順となっている。
- 「SNS」は「女性（35.7%）」、「20歳代以下（47.2%）」、「30歳代（41.0%）」で多くなっている。

③ 新型コロナウイルスによる移住ニーズの変化

- 新型コロナウイルスによる移住ニーズの変化は、「変わらない」が78.2%と最も多くなっている。「とても高まった」が3.2%、「やや高まった」が18.3%となっており、約2割（21.5%）で移住ニーズが高まっている。

④ 移住対象先としての君津市の評価

- 君津市を「候補として考えられる」が38.8%となっている。
- 年齢別では、「20歳代以下（48.0%）」、「30歳代（44.4%）」と若年層が多い。居住地別では、「神奈川県」が41.4%で最も多く、「東京都」も38.1%と「千葉県（35.0%）」を上回っている。

⑤ 候補地として考えられる理由

- 「自然が多そうだから」が61.3%で最も多く、次いで、「不動産価格や賃料（家賃・駐車場）の水準が安そうだから（40.8%）」、「交通の利便性が高そうだから（27.5%）」の順となっている。
- 「子育てしやすそうだから」は「20歳代以下（37.3%）」、「30歳代（35.2%）」で多くなっている。

⑥ 候補地として考えられない理由

- 「公共交通の利便性が良くなさそうだから」が29.6%で最も多く、次いで、「日常の買い物が不便そうだから（24.9%）」、「現在の職場から遠くなる（通えなくなる）から（24.7%）」の順となっている。